



平成 28 年 6 月 13 日

東京オリンピック・パラリンピック大臣
遠藤 利明 様

公益社団法人 日本建築士会連合会
会長 三井所 清典

オリンピックビレッジその他の仮設建築の木造化に係る提言

謹啓

時下、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素は、本会の各種事業推進につき、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、本会では、かねてより、中大規模木造設計セミナーの開催など建築物の木造化の推進に取り組んでいます。また、昨年は、新国立競技場の“屋根構造の木造化”に向けた提言をさせて頂きました。

そこで、この度、東京オリンピック・パラリンピック競技大会で計画されていますビレッジプラザをはじめとする仮設建築物についても、これを可能な限り木造化することにより、新国立競技場ほか他の競技施設の木材利用重視のデザインと相まって、木造・地球環境重視の運営を国内外にアピールするとともに、わが国が進めます低層公共建築の木造化推進に寄与すると考えました。

その結果、別添の通り、提言します木造仮設建築は、汎用性と先進性を備えた木造架構技術により建築、いずれもオリンピック・パラリンピック終了後は解体・移設の上、当該建築またはその部材を再利用することによりオリンピック・パラリンピックレガシーの全国普及とその仮設建築の費用の低減を目指します。

この実現のためには、木造仮設建築の再利用者をはじめ、その資材提供者など幅広い方々のご協力とネットワーク化が欠かせません。

関係者の皆様におかれては、是非その実現に向けた検討を進めていただくようお願いいたします。

謹白